

第 32 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議 議事概要

日時：2021 年 10 月 15 日（金）午前 10 時から午前 11 時まで

場所：愛知県庁本庁舎 6 階 正庁

1 挨拶

大村知事：

本日は、第 32 回愛知県新型コロナウイルス感染症対策本部会議に、御出席いただき感謝する。

本県では、9 月末の緊急事態宣言の解除後、感染再拡大を防止し、第 5 波を終息させるため、10 月 1 日から 10 月 17 日まで、県独自の愛知県厳重警戒措置を実施し、オール愛知で感染防止に取り組んできた。

この結果、10 月 10 日には、7 日間平均の新規陽性者数、入院者患者数、重症者数の数値がステージ I になった。また、陽性率もステージ I になり、全てがステージ I になった。これは、昨年の 7 月 17 日以来、1 年 3 か月ぶりである。

行政としては、客観的なデータとエビデンスに基づいて仕事をするため、このような状況を踏まえて、厳重警戒宣言を 10 月 17 日で一旦解除させていただく。

しかし、秋冬を迎えて、感染症のリスクはあり、新型コロナウイルス感染症がなくなるわけではないため、引き続き、警戒領域とさせていただき、イベントの開催制限の協力要請、感染防止対策の徹底をお願いする。

飲食店の営業時間の短縮要請はしないが、基本的な感染防止対策として、検温、手指消毒、換気、距離をとること、会食はいつも近くにいる 4 人まで等の感染防止対策の徹底は引き続きお願いする。

社会経済活動との両立について、Go To Eat キャンペーンは昨年 12 月から中断していたが、10 月 5 日から再開する。また、10 月 8 日から、県民の県内旅行を支援するため、あいち旅 e マネーキャンペーンと LOVE あいちキャンペーンにより、1 人 1 泊あたり 5 千円までの補助をスタートさせる。

また、コンサートにおける実証実験について、12 月の土日に日本ガイシホールにて、8 千人規模のものを 4 公演行う。有名なグループであるため、すぐに満員になると思う。

医療提供体制については、医療関係の皆様大変お世話になり、9 月 10 日から全体で 1,722 床 + α を確保していただいていたが、緊急確保病床として臨時でお願いをしていたものは、10 月 17 日に一旦減らすが、先日、更に 13 床追加していただいたため、最大確保病床数としては、1,735 床を確保している。

ワクチン接種については、全体では、2回接種済の方は全人口比で約68%までできているが、40歳以下の方は職域接種を入れてまだ約50%であり、半分近くが未接種である。そうした方々は感染の可能性がある、この秋冬に第6波が必ず来ると想定している。恐らく、今週が一番低い数値で来週から増えるため、引き続き緊張感をもってワクチン接種を更に進めていく。

感染防止対策の徹底と、社会経済活動の両立をしっかりとやっていきたい。後ほど、全体の措置概要を説明するが、忌憚ないご意見をいただき、感染対策に活かしていきたい。

2 議題（1）新型コロナウイルス感染症対策について

大村知事：

資料1は、私からの県民・事業者の皆様へのメッセージである。昨日付けで出させていただいた。引き続き、ステージⅡ相当の警戒領域により、感染防止対策の徹底をお願いする。

資料2が、感染防止対策の改訂であるが、ポイントだけを申し上げると、基本的な感染防止対策の徹底は引き続きお願いする。大人数、長時間での会合は回避していただき、会食・飲食をする際は、同居家族以外はいつも近くにいる4人まで、マスク会食をお願いする。また、ニューあいちスタンダード認証店やステッカー掲載店を利用していただきたい。なお、営業時間短縮は削除するが、引き続きこれまでと同様の感染防止対策をお願いする。業種別ガイドラインの遵守でも、飲食店では引き続き、感染防止対策の徹底をお願いする。

4ページのイベントの開催制限については引き続きお願いをし、5ページの一番上の、事業者は感染防止対策を徹底することと、参加者の方も自覚をもって、自ら徹底していただくようお願いを申し上げたい。

行事等での対策について、10月末にはハロウィンがあるため、渋谷区ではバーチャルで来ないでほしいというメッセージを出しているが、県としても、多くの方が集まることは控えてもらいたいというメッセージは出したい。

5ページの県の取り組みについては、自宅療養者等の体制、ワクチン接種の促進についてである。

6ページでは、飲食店へのあいスタ認証制度の普及についてである。

資料3は病床確保についてであり、医療関係の皆様には大変お世話になり、感謝する。9月10日に152床プラスして、合計1,722床を確保させていただいたが、新たに13床プラスして1,735床となった。病床の緊急確保は10月17日までとしているため、緊急確保した病床は元に戻していただくこととなるが、これらの病床は、感染が再拡大した場合に、再度協力をお願いする際に確保できる見込

みであるため、最大確保病床 1,735 床という形で計上する。これにより、入院患者数の指標は、裏面にあるように若干の見直しをさせていただく。

また、各医療機関の皆様には、お礼の書面も出させていきたい。

参考資料 2-1 はワクチン接種の状況についてであり、右下が 2 回目接種者の数値で、県の大規模接種会場と職域接種で国の VRS に登録されていない数が相当あるため、それを足すと 67.11% である。職域接種は水曜日の午前 9 時に聞き取っており、実態は約 68% である。1 回目接種は、実際は約 77% であるが、2 回目の接種をするため、愛知で約 80% 近くまではいくと考えている。

シンガポールの例を見ると、ワクチン接種率が国民の 80% を超えても感染は広がっていく。ただ、98% の方が軽症・無症状なので、特段の規制はしない。経済活動と感染防止対策の両立を図ると、シンガポールの首相も宣言をしているため、そのようになっていくと思っているが、そのためにも、ワクチンは 1 日でも早く、1 人でも多くの方に打っていただきたい。

参考資料 2-2 は年代別接種率についてである。これは VRS のみであるため、県の大規模会場の接種券なしの分と、職域接種が入っていない。愛知県の場合は職域接種で約 80 万人が接種しており、その方々は若い現役世代の方が多いため、その分を足すと 2 回接種した方は 50% を超えている。さらに上積みできるように、引き続き関係の団体・企業の方をお願いをしたい。妊産婦・夫への接種も順調に進んでおり、1 万 3 千人を超えた。また、若者の予約なし接種は 5 千人近い方が打っており、終局になってきている。高校生のワクチン接種も進んでおり、県の大規模接種会場も、10 月中に 1 回目接種を終えて、11 月下旬には一旦終局をしていく。

なお、3 回目のブースター接種もあるため、引き続き医療機関の皆様には、ワクチン接種をお願いしたい。

参考資料 3 は Go To Eat キャンペーンの再開についてである。去年の 12 月に募集をして抽選の発表を保留にしていたものを、10 月に発行する。この第 2 弾だけで 52 億円分である。

県民の県内旅行の応援として、5 千円分の補助と 2 千円分の飲食・土産物への補助、あいち旅 e マネーキャンペーンは最大 7 千円、LOVE あいちキャンペーンは最大 5 千円の補助を、10 月 8 日から再開している。

参考資料 5 がコンサートの「ワクチン・検査パッケージ」に関する技術実証について、参考資料 6 が予算についてである。

昨日の夜の時点で、入院状況は確保病床で見ると 95 人となり、100 人を切った。入院患者が 100 人を切ったのは去年の 10 月 2 日以来で、1 年ぶりである。また、重症者が 6 人で、今年 4 月 1 日以来である。宿泊療養施設が 60 人となり、今年 3 月 4 日以来であり、落ち着いてきている。

また、昨日時点での愛知県での人口 10 万人当たりの感染者数は全国で 14 番目という現状を見て、今回このような判断・対応をさせていただいた。

しかし、必ず第 6 波は来るため、その時は速やかに規制を強化して、感染防止対策をしっかりと県民の皆様をお願いしたい。飲食店の営業時間短縮も当然その際は復活させていただく。

感染防止対策の徹底を、引き続きお願いする。

(有識者・関係団体、政令市・中核市意見)

医療専門部会 長谷川部会長：

患者が少なくなってきたことと、重症者が減ってきたことで、医療機関の職員は少し安堵している。

今後、新型コロナウイルス感染症がどうなるか、世界で見ると様々である。英国、ロシア、トルコは再び増加してきている。一方、ドイツ、フランス、イタリア、スペインは大きく減少し、その状況を保っている。米国は現在、日本の第 5 波の際の約 1.5 倍の状況だが、急激に減少傾向にある。日本を含む東アジア、中東アジア、アフリカ、ブラジルを含めて減少傾向であることを見ると、当面は各国のワクチン接種状況と、政策による感染者のコントロールにより、感染状況は大きく異なり、各国様々であろうと思う。

ワクチン接種について、日本を含む多くの国で 2 回目接種が 7 割を超えている。ただし、フィリピンは 20%、ベトナムは 17% であり、世界全体を見るとワクチン接種が出来ていない国も多くあり、感染の再増加も十分注意しておく必要がある。特に、今後国外との交通が始まると、大きなポイントとなる。

今後の対応について、特に米国の再増加について、なぜ増えているのかを考えると、基本的な感染対策は、今後とも実施していただきたい。

ワクチン接種については、特に、ある一定の割合の方々が接種に応じられないため、そういった方々への啓発、呼びかけが重要である。また、ワクチン効果の減弱が取り沙汰されているため、3 回目接種に向けて、どのように取り組むかを考える必要がある。

嬉しいニュースもたくさんあり、特に内服治療薬の早期の臨床導入が期待されている。ぜひ、こういったものが出てくるまで、感染者数を抑えて、冬を乗り越えていただきたい。

大村知事：

治療薬が出ると状況が変わるため、それまでは、感染防止対策をしっかりと行っていく。引き続きよろしくお願いする。

愛知県医師会 柵木会長：

前回の会議では、緊急事態宣言の解除を決め、その際、2週間が山だという意見が出ていたが、まさにあれから2週間が経った。解除した途端に人の流れが急速に増えているにも関わらず、ステージIであるということは、第5波は、落ち着いたと解釈できる。

また、厳重警戒措置から警戒領域とし、10月18日に県として発出するが、期限を設定していない。今後の感染拡大の原因となる忘年会・新年会のシーズンがあり、去年は全く行われてなかったと思うが、今年は、感染者がかなり抑えられていることと、1年以上こういった会を行っていないため、社会制限が解除されれば、県民の心も大分緩んでくる。

10月18日からは警戒領域だが、年末年始の開放を県としてどのように指針を出すかをしっかりと考えて欲しい。感染が再拡大すれば、当然、以前と同じように禁止をすると思うが、今の状態が続いた場合、どのように、指針を出すかを、しっかり県としての対応を決めるべきである。

ワクチン接種について、確かに2回目接種率が7割近くになったが、諸外国の状況を見ると、免疫効果が薄れてきている。当初は7割になれば集団免疫が獲得されるという意見があったが、ワクチン先進国の状況を見ると、個人の重症化予防には明らかに効果があるが、免疫を作ることは難しい。

第6波をどのように想定するかについて、今までは感染の波が来ると、その都度病床確保に追われた。第6波の波が今までの範囲内であれば、対応は当然可能であるが、もしも、さらに大きな波であれば、混乱が起きることは避けられない。最悪のケースを想定して備えていくべきである。

病床確保については、一部の政治家や専門家が言うように法律を改正して法的拘束力を法律上担保するという意見もあるが、法的な拘束力で医療機関や医療従事者に新型コロナウイルス感染症に立ち向かわせることはしてはいけない。そもそも、新型コロナウイルス感染症に立ち向かう医療人材は限られており、どこからでも、すぐに要請できるわけではなく、限られたマンパワーの中で、通常医療と新型コロナウイルス感染症への医療をどのように対応していくか、苦労と現場での試行錯誤を繰り返しながら対処しているのが現状である。

国や県に強制力を与えたからといって、うまく対応出来るわけではなく、今までのやり方を細かく分析して、通常医療と新型コロナウイルス感染症への医療に対しての医療資源をどう適正に配分していくかという見地から、今後の最悪の事態に備え、対策を進めていくべきである。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

愛知県病院協会 伊藤会長：

感染者数が激減しており、病院の稼働状況もひっ迫状態から脱し、医療スタッフも少し落ち着いて安堵している。

感染状況が落ち着いたのは、ワクチンの効果が非常に高いためであるが、今後も更に接種率を上げていくことと、3回目接種に向けて体制をしっかりと整えていくことも、病院団体にとって重要である。

年末年始になると、当然、人流が増える。先日のアドバイザリーボードのデータでも夜間・繁華街の人流が急速に増えており、大きな懸念材料である。

第6波への備えについては、今後、再拡大すると考えると、第5波で準備をした病床数はそのまま確保して対応していきたいが、特に重症病床をどのように確保するかについては課題だと感じている。

前回の会議でも申し上げたが、特に年末年始は循環器系の急性期疾患が増える時期であり、急性期疾患に対する病床と、重症者に対する確保病床と、一般救急事態に対応する病床数のバランスをいかにとるかが大きな課題である。

また、ロナプリーブ等の薬剤が投与されることや、内服薬の開発という話もあり、それらの活用による、状況の変化を期待している。

第6波に備えた具体的な方策について、医療圏ごとに設置されている愛知県病院団体協議会で、それぞれの圏域ごとの感染状況に応じた適切な病床数と、確保病床の体制について協議する必要がある。

重症者が増えると、圏域を超えて搬送を行うことが必要になり、それも踏まえて、県との緊密な連携のもと、急性期疾患を含む生命に関わる全ての疾病への対応に対する最適解を求めていく。今後とも協力をよろしく願います。

大村知事：

冬に向けて、急性期疾患との両立について、対応をよろしく願います。

名古屋商工会議所 内田専務理事：

医療体制の維持にご尽力をいただいている医療従事者を始め、県内各保健所の方等の関係者に感謝を申し上げる。

緊急事態宣言が解除され、飲食店関係事業者の間には安堵の雰囲気が流れたが、営業時間や酒類提供の制限もあるため、従来の上に戻るのは先であるという見方が非常に多く、商工会議所の窓口にも、飲食店向けの感染防止対策の認証制度への問合せが多数見受けられる。

度重なる宣言の発出により、苦しんできた事業者は第6波を非常に警戒しており、人流で成り立つ飲食、宿泊、交通イベント、観光等の業種については、不安が払拭されたとは言えない状況である。

また、過剰債務を抱える企業が増えており、経済の正常化が進む過程で資金調達が出来なければ経営再建が難しくなることから、打撃を受けた事業者への継続的な資金繰り支援も必要である。

このような状況で、今回、飲食店に対する協力要請や様々な行動制限が緩和され、人々の行動が徐々に戻ってくることは誠にありがたい。需要喚起策についても、愛知県独自のものを実施されることに、感謝を申し上げる。

ウィズコロナの状況ではあるが、順次、経済活動の正常化を果たすことができればと願い、併せて、県民が感染防止への気を緩めないよう基本的な感染防止対策の徹底について、再度呼びかけをいただくようお願いを申し上げる。

大村知事：

需要喚起策と感染対策のバランスをしっかりと取っていく。

中部経済連合会 平松常務理事：

新規感染者数や重症者の数が大幅に減少し、低位で安定していることについては、医療関係者の皆様や自治体を始めとする関係者の皆様のご尽力のおかげであり、感謝を申し上げる。

飲食業について、時間制限なしとしていただいたことは、事業者や、地元経済にとっても歓迎されることである。

秋冬には感染症が増えることや、第6波は必ず来ることなど、僅かな気の緩みで感染は再拡大することを強く意識し続け、警戒することが重要である。

経済界としては、勤務関係については、引き続き在宅勤務や職場の換気や手洗い・消毒などの身の回りの徹底をし、懇親会等については、各自が自分ごととして人数ルールを守り、節度を持った懇親とするなど、勤務時間帯と懇親の場のいずれにおいても、感染防止に対しての気を緩めず、警戒領域での感染防止対策を徹底し、社会経済活動が正常化するように努めていきたい。

大村知事：

引き続き社会経済活動を回していく。今後ともよろしく願います。

愛知県経営者協会 岩原専務理事：

関係者に御礼を申し上げる。

今後は、第6波に最大限留意しながら、どのように感染対策に取り組んでいくかが重要となり、企業においては、ウィズコロナでの日常生活、会社生活、働き方について考えていきたい。

具体的には、オンラインとオフラインをどのように組み合わせるのかについて、現在、愛知県はデジタル化を推進しており、オフラインは感染対策上も非常に重要であるため、愛知県からの更なる推進をよろしく願います。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

日本労働組合総連合会愛知県連合会 中島副事務局長：

医療関係者、保健所、行政の皆様のご努力、ご尽力に改めて感謝申し上げます。引き続き、警戒領域での感染拡大防止に取り組むことについては了承する。協力するとともに、県民・事業者に対する基本的な感染防止対策の徹底について、引き続きの周知・啓発をお願いしたい。

ワクチン接種について、若者だけでなく、持病等によってワクチン接種を受けられない方が職場や家族に何人かおり、ワクチン接種が出来ず感染への大きな不安を感じていると聞いた。ワクチン接種をしていない方への差別をしないことはもちろんであるが、ぜひ、ワクチン接種をしていない方が安心して生活できるという視点でも、感染防止対策を、オール愛知で徹底していくため、引き続き皆様のご協力をお願いしたい。

LOVEあいちキャンペーンの実施について、県内の旅行事業者の支援となり、大変感謝申し上げます。今回、旅eマネーキャンペーンも同時に行っていただき、窓口へ、顧客から混同してしまうとのクレームが多々あると聞いており、周知も併せて願います。

大村知事：

キャンペーンについては、しっかりと周知をする。ワクチン接種について、職域接種はほぼ終局だが、ワクチンの量で、特にモデルナワクチンが大量にあるため、ぜひ現役世代の方々への接種の推奨をよろしく願ひ申し上げます。

愛知県市長会 相津事務局長：

年末に向けて、第6波が来ると言われている。

新年度に向けてどのような展望があるかについて、ワクチン・検査パッケージの運用や経口治療薬の実用化の動向は、まだ結果が出ていない段階ではある

が、日常生活の回復に向けた考え方は、共通認識を持ってしっかり臨んで参りたい。

なお、今後も様々な対策を継続していく状況の中、官民を問わずこの業務に携わってきた皆様の苦労は大変であったと思う。12月から、3回目のワクチン接種が始まる状況を踏まえると、長く続く新型コロナウイルス対策の関係で、内部組織や職員の負担等の課題を懸念する声が出始めている。

財政的な手当について、国の今年度の予算執行や来年度予算編成に対し、しっかりと要望をしていただきたい。

大村知事：

財政的な面で、しっかりと取り組んでいきたい。

愛知県町村会 宇佐見事務局長：

ワクチン接種について、若者は更に接種率を伸ばす必要があるが、2回目接種完了に向けて順調に進んできている。この状況の中、第5波が落ち着いたことはありがたいが、気を緩めることなく第6波への備えをする必要がある。

過去の課題や問題点をしっかり洗い出すことと、一方で、良かった点も示して総括をすることが重要である。その情報を、町村へ共有をいただき、第6波が来たときの対応について、あらかじめシミュレーションしていきたい。

経済活動についても、少しずつ取り戻していくため、引き続きご指導をいただきたい。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

名古屋市保健所 医監：

感染状況について、昨日時点で、人口10万人当たりの1週間合計が4.0人であった。この数字は、昨年今の時期に比べると、2倍近く多い状況である。このような状況で解除されるため、今後のリバウンドについては注意深く見る必要がある。今後はワクチン接種をさらに推進するとともに、第5波の状況を振り返って、第6波に向けての体制整備をしっかり行いたい。

大村知事：

次の波が来るまでに、しっかりと備えていきたい。

豊橋市保健所長：

新規感染者数は順調に減少し、毎日1人から5人程度で推移している。1週間の人口10万人単位の患者数は4人で、高齢者の患者も落ち着いている。

指標で見ると、陽性率は2.6%でまだイエローゾーンであるが、新規陽性者数、高齢者数、入院者数は、グリーンゾーンとなった。

ワクチン接種について、13日現在で1回目接種済みは高齢者が94%で、64歳以下が73%となっており、市内の医療機関の接種枠には空きがある。しかし、30歳以下が70%に達していないため、引き続き進めていく。

人の動きが活発になる中で、基本的な感染対策を引き続き実施していただきたい旨を、十分に周知していきたい。また、この期間に課題整理を行い、3回目接種も含めて、体制整備をしていく。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

岡崎市保健所長：

新規感染者は急速に減少してきており、10月7日から13日の7日間で、新規感染者数が7人であった。70歳以上の1週間平均の新規感染者数は0.1で、1週間平均の重症者が0.6人となり、ステージⅡからⅠに近付いている。

10月に入り、約80日ぶりに新規感染者数が0人の日があり、11日から13日の3日間は、重症者も0人である。

第5波のピーク時には宿泊療養施設と自宅療養者の合計で800人近かった感染者の状況も、10月13日には合計4人まで減少した。

第5波の感染者におけるワクチン接種状況について、ワクチン接種なしが90%で、1回目接種済みが5.5%。2回目接種済みが4.6%であった。

ワクチン接種率について、10月13日時点で、1回目接種者が約80%で、2回目接種者が約70%である。年代別では、10代の1回目接種終了者が51%で、20代の1回目接種終了者が66%で、まだ低い状況であり、2回目接種終了者は、10代が25%、20代が47%である。予約の状況を見ると、11月末には2回目接種について10代が52%、20代が60%に到達すると推定しているが、さらに若年者への、接種推進を図っていく必要がある。

感染対策の徹底を呼び掛けるとともに、3回目のワクチン接種に向けて、準備を進めているところである。

大村知事：

引き続きよろしく願います。

一宮市保健所長 :

一宮市は4月1日から中核市になり、新規感染者が10月13日までで累計3,501人となった。第4波後の最低数は1週間で8人であったが、その後増加し、9月2日から9月8日の週の574人がピークであった。この後また減少していき、10月7日週は12人で、直近1週間は0人や1人の日もあり、0人が続くことを望むが、そこまでは減っていない。

入院患者について、10月13日の時点で、市内の入院患者は6人である。宿泊療養施設には1人であり、自宅療養者も一時は450人まで行ったが、10月12日で11人になっている。

3回目のワクチン接種については準備を進めている。

大村知事 :

引き続きよろしく願います。

豊田市保健所 副参事 :

9月25日以降、1桁の陽性者数が続いている。昨日現在で、直近1週間の陽性者数は13人で、人口10万人当たり3.09となっている。陽性者について、20歳以下が7人、60歳以上が6人である。昨日現在の入院患者が5人で、全ての療養者は23人という状況である。

ワクチン接種について、14日時点のVRSの接種率であるが、12歳以上の1回目接種が82.7%で、2回目接種が73.6%となっており、最近では職域接種の入力が進んでいるため、VRSへの登録は毎日約5,000件ある。市の集団接種については、先日の10日で1回目を終了し、明日以降は2回目接種のみとなり、10月31日に終了する予定となっている。個別接種の予約も埋まりにくい状況ではあるが、集団接種終了後の11月以降も、接種を継続できるよう、医療機関と調整を行っている。

大村知事 :

引き続きよろしく願います。

愛知県医師会 柵木会長 :

今後の感染状況を見て、警戒領域から対策レベルを上げるのか、または解除するのかについて、感染者数が上がってくる場合は対策レベルを上げると思うが、仮にこのままの状態が続いた場合、どのように対処すると考えているか。

大村知事 :

今回の警戒領域は、基本的な感染防止対策の徹底をお願いし、飲食店等への営業時間短縮をお願いしないことが、一番大きく変わる点である。

今後の対応については、このまま収まればよいが、秋冬を迎えて、そうなることはなく、どこかで感染者数が増加すると予想している。そうなると、嚴重警戒措置または、まん延防止等重点措置をお願いすることになると思う。

感染症であるため、加率的に感染者が増加することも十分に考えられ、一気に増えると思われる場合には、早めに規制をかける。

今は、新規陽性者は収まっているが、急増することが十分あり得るため、しっかり警戒をして、機動的に対応をしていきたい。

現在、6棟のホテルを確保し約1,600部屋がある中、今日現在で、入所者は60人であるが、秋冬に備えるため、この6棟のホテルの借上げ体制は当面は維持をしていきたい。

年末年始の忘年会等については、あくまでも感染防止対策の徹底のため、食事の際の人数制限についてもガイドライン等で示しており、この秋冬は対応していただきたい。

本日はお忙しい中、ご参加いただき感謝する。引き続きの感染防止対策の徹底と、社会経済活動の適切な対応をお願い申し上げる。

ワクチン接種については、終盤であるが、一日でも早く、一人でも多くの方に接種いただけるよう、引き続きお願いをさせていただくことと併せて、医療関係の皆様には、引き続き万全の医療体制の確保に向けて、お願いを申し上げたい。

本日の会議を経て、この警戒領域での感染防止対策を正式に発出をさせていただき、県内の各市町村と、関係団体始め関係者をお願いをしていきたい。

引き続き、オール愛知で感染防止対策に全力で取り組んでいく。今後ともよろしくようお願い申し上げます。